

Kunikazu Ishii

愛で溢れる美しく活力ある郷土づくり

東北と
県政の絆を!

元気な県北を目指し

石井邦一の挑戦は続く

2021年の新春を迎え心よりお慶び申し上げます。日頃は皆様方に「愛で溢れる美しく活力ある郷土づくり」のために、ご指導とご支援を賜っておりまして、改めて心より感謝申し上げます。石井邦一も初当選以来、皆様方との絆により育てをいただきながら、初心を大切に元気いっぱいに代弁者として全力で取り組んで参りました。早いもので14年が経過いたしました。

昨年を振り返ると、コロナ禍による緊急事態宣言の発令により、人も地域も分断され、あらゆる会合や祭りイベントが中止や縮小するなど自粛を余儀なくされ、全ての行動に感染症対策が伴う、新しい生活様式が求められた異例の一年となりました。

県議会においても議会運営委員会委員長として、議会

日本一のサイクリング王国を目指し私が幹事を務めるいばらき自民党スポーツ健康振興議員連盟内にサイクリング部会を設置しナショナルサイクルードに指定を受けたつくば霞ヶ浦りんりんロードの現地調査を大井川和彦知事はじめ県関係部局にも参加頂き行いました



いばらき自民党スポーツ健康振興議員連盟においてナショナルサイクルードに指定を受けたつくば霞ヶ浦りんりんロードの現地調査の報告会並びに課題について意見交換会を行い幹事長として座長を務めました

南北格差是正に

全力で取り組む



健康推進議員連盟において

そして、私が幹事を務める「いばらき自民党スポーツ健康推進議員連盟」において

また、第3回定例会での13回目となる一般質問では、コ

での新型コロナウイルス感染症の3密対策、緊急事態に

は、日本一のサイクリング王国を目指し、新たにサイクリング部会を設置し現地調査や勉強会などを実施いたしました。

更に、第4回定例会では正副議長選が行われ、議員各位のご推挙を賜り、4期の同期の中から初となる、第114代茨城県議会副議長に就任する事ができました。これも偏に、日頃より議会活動並びに政務活動にご協力とご指導を賜りました皆様のおかげであると深く感謝申し上げます。

今年は、常井議長を支えながら、全力で茨城県発展のために議会運営に取り組むと共に、常任委員会では営業戦略農林水産委員会に所属し、観光や農林水産業の振興に全力で取り組んで参ります。これからも県民の皆様との絆を大切に、愛で溢れる美しく活力ある郷土づくりに全力で取り組んで参りますので、今年も県政に対する様々なご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

令和2年 議会運営委員会委員長の取り組み

1. 新型コロナウイルス感染症対策

- 3密(密集、密接、密閉)を回避すべく、議会における感染防止対策を徹底した上で、円滑な議会運営に努めた。
- 質問・質疑における本会議出席議員の調整(3分の2または2分の1程度)。
- 本会議場の演壇に飛沫感染防止のためのアクリル板を設置。
- 本会議及び委員会における傍聴者への感染防止策の徹底(マスク着用、体温測定、手指の消毒、いばらきアマビエちゃんの導入)とともに、傍聴自粛の呼びかけ及び傍聴席の縮減。
- 委員会室の密集状態を緩和するため、広い委員会室を使用するとともに、常任委員会を2日間に分けて分散開催。
- 新型コロナウイルス感染症対策関係予算(当初予算及び補正予算8回)など様々な重要案件について、日程の短縮や質問の中止をすることなく、会期日程のとおり審議を進めた。
- コロナ対策関係補正予算審議のため、2度の臨時会開催(4月、7月)に係る調整(日程、質問、委員会開催など)に努めた。



茨城県議会森田議長の下で1年間議会運営委員会委員長を務め新型コロナウイルス感染症対策やペーパーレス化に向けてタブレット導入更に条例改正など積極的に議会運営を行いました



2. 県議会のICT化

- 議会における審議の充実及びペーパーレス化を推進するため、タブレット端末の円滑な導入に向けたルールづくりを行った。
- 第2回定例会から委員会においてタブレット端末の使用を開始し、第3回定例会からは本会議へ利用を拡大した。
- 大規模災害等で議事堂への参集が困難な場合に備え、オンライン委員会の開催を可能にするため委員会条例を改正した。

コロナ関連補正予算 約2,243億円が組まれました。

- 第3波到来により、医療提供体制は逼迫しつつあります。これからインフルエンザとの同時流行も心配される時期であり、県民の命と生活を守ることが最重要課題であります。

- 目下、コロナと戦う最前線となる医療機関に対する支援や保健所の機能強化に向けて速やかに対応し、産業支援など各種コロナ対策へ全力で取り組んでまいります。

県民の皆さまは引き続き、咳エチケットや手洗い等の感染対策の徹底を行い健康管理に十分気をつけてください。

【参考】

当初予算(可決された一般会計予算総額) : 1,162,917百万円
補正予算額(一般会計)合計 : 223,978百万円
補正後の一般会計予算総額 : 1,386,896百万円

補正予算	提出時期	補正予算額	コロナ関連 予算額	一般会計予算総額 (可決された額)
第1回補正	3月(1定)	7,289	7,289	1,170,207
第2回補正	4月(臨時会)	96,333	96,333	1,266,540
第3回補正	6月(2定①)	5,008	5,008	1,271,548
第4回補正	6月(2定②)	4,648	4,648	1,276,196
第5回補正	7月(臨時会)	45,947	45,947	1,322,143
第6回補正	9月(3定)	19,552	15,504	1,341,695
第7回補正	12月(4定①)	44,781	44,163	1,386,476
第8回補正	12月(4定②)	420	420	1,386,896
第9回補正	12月18日専決処分	4,995	4,995	1,391,891

計 228,973 224,307

※R2年度に一般財源基金を145億7,900万円(うちコロナ関係分112億8,000万円)取り崩し、一般財源基金の残高見込みは572億3,800万円。



本県選出国会議員への要望活動に参加し、県産木材の活用について意見交換会を行い、木造推進法などの制定を求めました



宮の郷工業団地へ木材を活用した新産業の改質リグミンの実証実験施設の誘致を実現し、大井川和彦知事に報告の表敬訪問



いばらき自民党においてコロナ関連の追加対策を取り纏め、大井川和彦知事に要望書を手渡し意見交換会を行いました

茨城県議会議員 石井邦一 事務所

石井邦一の活動や県政などについて
お気軽にご意見をお寄せ下さい
ホームページ <http://www.kunikazu.net>

〒319-3361 茨城県久慈郡大子町垣藤5016
TEL 0295-79-3888 FAX 0295-79-3887
Facebook [kunikazu.net](https://www.facebook.com/kunikazu.net) Eメール info@kunikazu.net

日々の活動については、ホームページ並びに、Facebookをご覧ください。

QRコードを
読み込んで、
ホームページに
簡単アクセス!



【徳田太郎氏】まず、基礎自治体との協議で
おこなうべきだと思いますが、協議は当然して
おりません。まずは、県単位の投票を実現
するところから目指していきたいと思います。



【佐藤孝一氏】わかりました。最後に、我々いば
らき自民党は条例を数多く制定してまい
りました。その過程プロセスの中におい
ては、市町村自治体の意見もしっかりと反
映できるように我々は取り組んでおりま
す。決してよいしるしにしているという
ことではありません。今回の条例制定に向
いては、各基礎自治体との協議が行われて
いるのか。これは一票の格差についても
あります。東海村の有権者、そして茨城県
全体の有権者がこれ考えたときに、どの
ように考えるかという問題にもつながっ
てきます。地方自治法第245条第2項
には、地方公共団体との協議というものが
うたわれております。そのような中で、1
票の格差というものをどのように重んず
るのか、そして、基礎自治体との協議は行
われたかどうか、これをお聞かせくださ
い。

【佐藤孝一氏】ありがとうございます。中村か
らの皆様、やはりとりをきう聞かせてい
ただいて、私は今、質問をさせていただ
いております。この中で、県民が議論でき
るような情報の提供、そういうものが何より
大切である、私は思っております。皆さん
はそのこと、二石を投じたのかもしれま
せん。それぞれ、自治体において、同じよ
うに直接投票をしたというところで、そ
れぞれの市町村の方が直接請求をされて、
住民投票を実施する、というものが、その
あるというふうに考えます。
まずは、県民が全て等しく投票できる機会
は、一票の格差以前に、全員に平等にし
かも公平に、包括的に権利が与えられるもの
である、ということ、私たちは県民投票を
推進しているもの、というふうに思います。
【佐藤孝一氏】ありがとうございます。中村か
らの皆様、やはりとりをきう聞かせてい
ただいて、私は今、質問をさせていただ
いております。この中で、県民が議論でき
るような情報の提供、そういうものが何より
大切である、私は思っております。皆さん
はそのこと、二石を投じたのかもしれま
せん。それぞれ、自治体において、同じよ
うに直接投票をしたというところで、そ
れぞれの市町村の方が直接請求をされて、
住民投票を実施する、というものが、その
あるというふうに考えます。
まずは、県民が全て等しく投票できる機会
は、一票の格差以前に、全員に平等にし
かも公平に、包括的に権利が与えられるもの
である、ということ、私たちは県民投票を
推進しているもの、というふうに思います。

石井邦一が所属した総務企画委員会による提言書で 石井邦一が提言する7項目(赤字部分)が取り上げられました。



1 地域資源を有効活用した魅力あるいばらきづくり

- 県内でも特に人口減少が急速に進む県北地域の活性化を進める際は、県北振興局が部局横断的にプロジェクトを進める中心となって課題解決に取り組むこと。
- 新しい生活様式を見据えた県北振興にスピード感をもって対応し、水郡線が全線開通する際は、復興のシンボルとなるSL運行やイベント列車などの振興策を検討し、県北地域へのさならる波及と誘客を促進すること。
- アートや食を活用した地域主体のまちづくりを促進し、交流人口の創出につなげる。また、地域おこし協力隊等との連携や、県北地域の魅力を動画配信するなど地域活性化に取り組むこと。
- コロナNextの対策として、今後感染が再拡大の時に、旅行の取扱いも含めてどのような対策をとるべきなのかが検討すること。
- 日常生活の空間や施設を地域資源と見なし、まち全体での集客を行っていく生活型観光地を定着させ、地域資源等の一体的な情報発信に取り組むこと。
- つくば国際会議場については、つくば中心市街地の活性化の動向を踏まえつつ、今後の経営戦略を考えていくこと。
- 鹿島臨海工業地帯の持続的な発展に向けさらなる競争力の強化を図るため、企業や地元市と連携して競争力強化プランの検討をすること。
- 水戸とつくばの都市間連携を促し、交流人口を拡大させるため、都市間高速バスの利用促進や乗り継ぎの円滑化などの利便性向上を図るとともに、地域の移動ニーズや交通ネットワークなどを考慮し、新たな移動サービスの導入等に取り組む市町村に対して支援を行うこと。
- 観光や災害対応など公共性の高い業務を担っている貸切バス事業者や自動車運転代行業者に対しても、コロナ禍後も事業継続が図られるよう、公共交通機関に準じて支援すること。
- 県庁25階展望ロビーや11階アトリウム等について、ウィズコロナ時代にあっても、来庁者に快適に利用していただけるよう、一層のサービス向上に取り組むこと。

2 多様な「人財」やICT等を有効活用した魅力あるいばらきづくり

- テレワークなど新たな働き方が広がる中、東京圏から地方への移住の流れをチャンスと捉え、県がリーダーシップを発揮して、市町村と連携しながら、さまざまな移住施策に積極的に挑戦していくこと。
- インパクトのある移住推進の取組を発信し、移住先として本県が目目されるようPRを強化するとともに、市町村が取り組む移住施策を積極的に支援すること。
- DX(デジタル・トランスフォーメーション。単なるIT化ではなく仕事の在り方も変えること)を見据えた施策を推進するとともに、政策効果の測定に重要な関連を持つ情報や統計等のデータを活用したEBPM(エビデンス・ベース・ポリシー・メイキング。証拠に基づく政策立案)に取り組み、県の施策へのフィードバックを図ること。



6月議会の第2回定例会からペーパーレス化に向けてタブレットが導入され総務企画委員会でもタブレットを活用し審議しました

【佐藤孝一氏】ありがとうございます。中村か
らの皆様、やはりとりをきう聞かせてい
ただいて、私は今、質問をさせていただ
いております。この中で、県民が議論でき
るような情報の提供、そういうものが何より
大切である、私は思っております。皆さん
はそのこと、二石を投じたのかもしれま
せん。それぞれ、自治体において、同じよ
うに直接投票をしたというところで、そ
れぞれの市町村の方が直接請求をされて、
住民投票を実施する、というものが、その
あるというふうに考えます。
まずは、県民が全て等しく投票できる機会
は、一票の格差以前に、全員に平等にし
かも公平に、包括的に権利が与えられるもの
である、ということ、私たちは県民投票を
推進しているもの、というふうに思います。

【佐藤孝一氏】ありがとうございます。中村か
らの皆様、やはりとりをきう聞かせてい
ただいて、私は今、質問をさせていただ
いております。この中で、県民が議論でき
るような情報の提供、そういうものが何より
大切である、私は思っております。皆さん
はそのこと、二石を投じたのかもしれま
せん。それぞれ、自治体において、同じよ
うに直接投票をしたというところで、そ
れぞれの市町村の方が直接請求をされて、
住民投票を実施する、というものが、その
あるというふうに考えます。
まずは、県民が全て等しく投票できる機会
は、一票の格差以前に、全員に平等にし
かも公平に、包括的に権利が与えられるもの
である、ということ、私たちは県民投票を
推進しているもの、というふうに思います。

石井邦一が所属した総務企画委員会による提言書で 石井邦一が提言する7項目(赤字部分)が取り上げられました。

「活力があり県民が日本一幸せな魅力ある いばらきづくり」に関する提言

「活力があり県民が日本一幸せな魅力あるいばらきづくり」を重点審査テーマに掲げ、1年間の審査の過程で実施した県内の事例調査や有識者等からの意見聴取の結果を踏まえ、「地域資源を有効活用した魅力あるいばらきづくり」、「多様な『人財』やICT等を有効活用した魅力あるいばらきづくり」の実現に向け、本県が取り組むべき施策等について提言するのである。執行部においては、本提言の内容に十分配慮のうえ、業務の推進にあたられたい。

1 地域資源を有効活用した魅力あるいばらきづくり

- 県内でも特に人口減少が急速に進む県北地域の活性化を進める際は、県北振興局が部局横断的にプロジェクトを進める中心となって課題解決に取り組むこと。
- 新しい生活様式を見据えた県北振興にスピード感をもって対応し、水郡線が全線開通する際は、復興のシンボルとなるSL運行やイベント列車などの振興策を検討し、県北地域へのさならる波及と誘客を促進すること。
- アートや食を活用した地域主体のまちづくりを促進し、交流人口の創出につなげる。また、地域おこし協力隊等との連携や、県北地域の魅力を動画配信するなど地域活性化に取り組むこと。
- コロナNextの対策として、今後感染が再拡大の時に、旅行の取扱いも含めてどのような対策をとるべきなのかが検討すること。
- 日常生活の空間や施設を地域資源と見なし、まち全体での集客を行っていく生活型観光地を定着させ、地域資源等の一体的な情報発信に取り組むこと。
- つくば国際会議場については、つくば中心市街地の活性化の動向を踏まえつつ、今後の経営戦略を考えていくこと。
- 鹿島臨海工業地帯の持続的な発展に向けさらなる競争力の強化を図るため、企業や地元市と連携して競争力強化プランの検討をすること。
- 水戸とつくばの都市間連携を促し、交流人口を拡大させるため、都市間高速バスの利用促進や乗り継ぎの円滑化などの利便性向上を図るとともに、地域の移動ニーズや交通ネットワークなどを考慮し、新たな移動サービスの導入等に取り組む市町村に対して支援を行うこと。
- 観光や災害対応など公共性の高い業務を担っている貸切バス事業者や自動車運転代行業者に対しても、コロナ禍後も事業継続が図られるよう、公共交通機関に準じて支援すること。
- 県庁25階展望ロビーや11階アトリウム等について、ウィズコロナ時代にあっても、来庁者に快適に利用していただけるよう、一層のサービス向上に取り組むこと。

2 多様な「人財」やICT等を有効活用した魅力あるいばらきづくり

- テレワークなど新たな働き方が広がる中、東京圏から地方への移住の流れをチャンスと捉え、県がリーダーシップを発揮して、市町村と連携しながら、さまざまな移住施策に積極的に挑戦していくこと。
- インパクトのある移住推進の取組を発信し、移住先として本県が目目されるようPRを強化するとともに、市町村が取り組む移住施策を積極的に支援すること。
- DX(デジタル・トランスフォーメーション。単なるIT化ではなく仕事の在り方も変えること)を見据えた施策を推進するとともに、政策効果の測定に重要な関連を持つ情報や統計等のデータを活用したEBPM(エビデンス・ベース・ポリシー・メイキング。証拠に基づく政策立案)に取り組み、県の施策へのフィードバックを図ること。

【佐藤孝一氏】ありがとうございます。中村か
らの皆様、やはりとりをきう聞かせてい
ただいて、私は今、質問をさせていただ
いております。この中で、県民が議論でき
るような情報の提供、そういうものが何より
大切である、私は思っております。皆さん
はそのこと、二石を投じたのかもしれま
せん。それぞれ、自治体において、同じよ
うに直接投票をしたというところで、そ
れぞれの市町村の方が直接請求をされて、
住民投票を実施する、というものが、その
あるというふうに考えます。
まずは、県民が全て等しく投票できる機会
は、一票の格差以前に、全員に平等にし
かも公平に、包括的に権利が与えられるもの
である、ということ、私たちは県民投票を
推進しているもの、というふうに思います。

【佐藤孝一氏】ありがとうございます。中村か
らの皆様、やはりとりをきう聞かせてい
ただいて、私は今、質問をさせていただ
いております。この中で、県民が議論でき
るような情報の提供、そういうものが何より
大切である、私は思っております。皆さん
はそのこと、二石を投じたのかもしれま
せん。それぞれ、自治体において、同じよ
うに直接投票をしたというところで、そ
れぞれの市町村の方が直接請求をされて、
住民投票を実施する、というものが、その
あるというふうに考えます。
まずは、県民が全て等しく投票できる機会
は、一票の格差以前に、全員に平等にし
かも公平に、包括的に権利が与えられるもの
である、ということ、私たちは県民投票を
推進しているもの、というふうに思います。

石井邦一が所属した総務企画委員会による提言書で 石井邦一が提言する7項目(赤字部分)が取り上げられました。

「活力があり県民が日本一幸せな魅力ある いばらきづくり」に関する提言

「活力があり県民が日本一幸せな魅力あるいばらきづくり」を重点審査テーマに掲げ、1年間の審査の過程で実施した県内の事例調査や有識者等からの意見聴取の結果を踏まえ、「地域資源を有効活用した魅力あるいばらきづくり」、「多様な『人財』やICT等を有効活用した魅力あるいばらきづくり」の実現に向け、本県が取り組むべき施策等について提言するのである。執行部においては、本提言の内容に十分配慮のうえ、業務の推進にあたられたい。

1 地域資源を有効活用した魅力あるいばらきづくり

- 県内でも特に人口減少が急速に進む県北地域の活性化を進める際は、県北振興局が部局横断的にプロジェクトを進める中心となって課題解決に取り組むこと。
- 新しい生活様式を見据えた県北振興にスピード感をもって対応し、水郡線が全線開通する際は、復興のシンボルとなるSL運行やイベント列車などの振興策を検討し、県北地域へのさならる波及と誘客を促進すること。
- アートや食を活用した地域主体のまちづくりを促進し、交流人口の創出につなげる。また、地域おこし協力隊等との連携や、県北地域の魅力を動画配信するなど地域活性化に取り組むこと。
- コロナNextの対策として、今後感染が再拡大の時に、旅行の取扱いも含めてどのような対策をとるべきなのかが検討すること。
- 日常生活の空間や施設を地域資源と見なし、まち全体での集客を行っていく生活型観光地を定着させ、地域資源等の一体的な情報発信に取り組むこと。
- つくば国際会議場については、つくば中心市街地の活性化の動向を踏まえつつ、今後の経営戦略を考えていくこと。
- 鹿島臨海工業地帯の持続的な発展に向けさらなる競争力の強化を図るため、企業や地元市と連携して競争力強化プランの検討をすること。
- 水戸とつくばの都市間連携を促し、交流人口を拡大させるため、都市間高速バスの利用促進や乗り継ぎの円滑化などの利便性向上を図るとともに、地域の移動ニーズや交通ネットワークなどを考慮し、新たな移動サービスの導入等に取り組む市町村に対して支援を行うこと。
- 観光や災害対応など公共性の高い業務を担っている貸切バス事業者や自動車運転代行業者に対しても、コロナ禍後も事業継続が図られるよう、公共交通機関に準じて支援すること。
- 県庁25階展望ロビーや11階アトリウム等について、ウィズコロナ時代にあっても、来庁者に快適に利用していただけるよう、一層のサービス向上に取り組むこと。

2 多様な「人財」やICT等を有効活用した魅力あるいばらきづくり

- テレワークなど新たな働き方が広がる中、東京圏から地方への移住の流れをチャンスと捉え、県がリーダーシップを発揮して、市町村と連携しながら、さまざまな移住施策に積極的に挑戦していくこと。
- インパクトのある移住推進の取組を発信し、移住先として本県が目目されるようPRを強化するとともに、市町村が取り組む移住施策を積極的に支援すること。
- DX(デジタル・トランスフォーメーション。単なるIT化ではなく仕事の在り方も変えること)を見据えた施策を推進するとともに、政策効果の測定に重要な関連を持つ情報や統計等のデータを活用したEBPM(エビデンス・ベース・ポリシー・メイキング。証拠に基づく政策立案)に取り組み、県の施策へのフィードバックを図ること。



【佐藤孝一氏】ありがとうございます。中村か
らの皆様、やはりとりをきう聞かせてい
ただいて、私は今、質問をさせていただ
いております。この中で、県民が議論でき
るような情報の提供、そういうものが何より
大切である、私は思っております。皆さん
はそのこと、二石を投じたのかもしれま
せん。それぞれ、自治体において、同じよ
うに直接投票をしたというところで、そ
れぞれの市町村の方が直接請求をされて、
住民投票を実施する、というものが、その
あるというふうに考えます。
まずは、県民が全て等しく投票できる機会
は、一票の格差以前に、全員に平等にし
かも公平に、包括的に権利が与えられるもの
である、ということ、私たちは県民投票を
推進しているもの、というふうに思います。

石井邦一が所属した総務企画委員会による提言書で 石井邦一が提言する7項目(赤字部分)が取り上げられました。

「活力があり県民が日本一幸せな魅力ある いばらきづくり」に関する提言

「活力があり県民が日本一幸せな魅力あるいばらきづくり」を重点審査テーマに掲げ、1年間の審査の過程で実施した県内の事例調査や有識者等からの意見聴取の結果を踏まえ、「地域資源を有効活用した魅力あるいばらきづくり」、「多様な『人財』やICT等を有効活用した魅力あるいばらきづくり」の実現に向け、本県が取り組むべき施策等について提言するのである。執行部においては、本提言の内容に十分配慮のうえ、業務の推進にあたられたい。

1 地域資源を有効活用した魅力あるいばらきづくり

- 県内でも特に人口減少が急速に進む県北地域の活性化を進める際は、県北振興局が部局横断的にプロジェクトを進める中心となって課題解決に取り組むこと。
- 新しい生活様式を見据えた県北振興にスピード感をもって対応し、水郡線が全線開通する際は、復興のシンボルとなるSL運行やイベント列車などの振興策を検討し、県北地域へのさならる波及と誘客を促進すること。
- アートや食を活用した地域主体のまちづくりを促進し、交流人口の創出につなげる。また、地域おこし協力隊等との連携や、県北地域の魅力を動画配信するなど地域活性化に取り組むこと。
- コロナNextの対策として、今後感染が再拡大の時に、旅行の取扱いも含めてどのような対策をとるべきなのかが検討すること。
- 日常生活の空間や施設を地域資源と見なし、まち全体での集客を行っていく生活型観光地を定着させ、地域資源等の一体的な情報発信に取り組むこと。
- つくば国際会議場については、つくば中心市街地の活性化の動向を踏まえつつ、今後の経営戦略を考えていくこと。
- 鹿島臨海工業地帯の持続的な発展に向けさらなる競争力の強化を図るため、企業や地元市と連携して競争力強化プランの検討をすること。
- 水戸とつくばの都市間連携を促し、交流人口を拡大させるため、都市間高速バスの利用促進や乗り継ぎの円滑化などの利便性向上を図るとともに、地域の移動ニーズや交通ネットワークなどを考慮し、新たな移動サービスの導入等に取り組む市町村に対して支援を行うこと。
- 観光や災害対応など公共性の高い業務を担っている貸切バス事業者や自動車運転代行業者に対しても、コロナ禍後も事業継続が図られるよう、公共交通機関に準じて支援すること。
- 県庁25階展望ロビーや11階アトリウム等について、ウィズコロナ時代にあっても、来庁者に快適に利用していただけるよう、一層のサービス向上に取り組むこと。

2 多様な「人財」やICT等を有効活用した魅力あるいばらきづくり

- テレワークなど新たな働き方が広がる中、東京圏から地方への移住の流れをチャンスと捉え、県がリーダーシップを発揮して、市町村と連携しながら、さまざまな移住施策に積極的に挑戦していくこと。
- インパクトのある移住推進の取組を発信し、移住先として本県が目目されるようPRを強化するとともに、市町村が取り組む移住施策を積極的に支援すること。
- DX(デジタル・トランスフォーメーション。単なるIT化ではなく仕事の在り方も変えること)を見据えた施策を推進するとともに、政策効果の測定に重要な関連を持つ情報や統計等のデータを活用したEBPM(エビデンス・ベース・ポリシー・メイキング。証拠に基づく政策立案)に取り組み、県の施策へのフィードバックを図ること。

東海第二発電所の再稼働の賛否を問う県民投票案
例議案の総務企画委員会と防災環境産業委員会との
合同審査における石井邦一といばらき原発県民
投票の会徳田共同代表の質疑応答について